西白山台小

# 多様な他者と協働し、課題解決に取り組む児童の育成

## ～人間関係形成能力を高める学級活動の工夫を通して～

（３年計画の１年次）

校長　　加藤　慎一

### １　研究主題について

本校では、教育目標として「心豊かに　たくましく　ともに学び合う子」、努力目標として「よく聴き　よく考える子」「きまりを守り　思いやりをもつ子」「進んで体をきたえる子」を掲げている。今年度はこれらの目標を達成するため、「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う授業」や「自尊感情や自己有用感を高める指導の充実」、「自己の体力向上と健康維持を意識して日々努力する態度の育成」を重点施策とし、「西白魂をもち、ねばり強く取り組む子」の育成を目指すことにした。

これまで体育科を中核に据えて取り組んだ６年間の研究では、「組み合わせ単元」の有効性を実証し、教員の授業マネジメント力を向上させることができた。昨年度は、児童が解決したくなる課題設定の工夫、児童が自己の変容を実感できる振り返りの工夫を取り入れた授業の研究に取り組んだ。その結果、手本となる映像資料や前時の振り返りを活用したり、思考を揺さぶる発問を工夫したりすることにより、児童はよく考え、解決すべき問いを見付けられることが分かった。また、観点を与えて振り返らせたり、１単位時間の中で随時振り返る場面を設定したりすることにより、児童は自己の変容をより実感することが実証できた。ワークシートやノートを活用し、教師がフィードバックを行うことが、次時への意欲を高めさせることも分かった。

しかし、どの場面においても考えを発言する児童は限られており、一人一人の考えを全体で共有できているとは言い難く、誰もが自分の考えを言語化できる手立てが課題となった。また、学校生活における挨拶や廊下歩行なども課題となっており、児童が主体的に解決方法を話し合い、実践する力を育てたいと考えた。

そこで、今年度からは「『集団や社会の形成者としての見方・考え方』を働かせながら『様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する』ことを通して、資質・能力を育むことを目指す」特別活動の研究に取り組むことにした。初年度となる今年度は、主に「人間関係形成」能力を高めるため、学級活動（１）の研究に注力する。まずは、自分の考えをもち、それを外言化できるように、学級活動への意欲を高める手立てを工夫する。掲示や教具、ワークシートを工夫したり、事前・事後活動を充実させたりしていきたい。また、協働的に課題を解決する力を高めるため、合意形成を図る指導の工夫に取り組み、教師のファシリテーターとしての役割について考えたり、児童の伝え合う力を高めたりしていきたい。そして、成果と課題を分析するため、児童・学級の変容を見取ることができる調査についても研究していく。これらに取り組むことにより、多様な他者と協働し、主体的に課題解決に取り組む児童を育てていきたいと考える。

### ２　研究のねらい

多様な他者と協働し、主体的に課題解決に取り組む児童を育てるために、人間関係形成能力（違いを認め合い、みんなと共に生きていく力）を高める学級活動の工夫について、日常の実践を通して明らかにしていく。

### ３　研究仮説

人間関係形成能力（違いを認め合い、みんなと共に生きていく力）を高める学級活動を工夫することによって、多様な他者と協働し、主体的に課題解決に取り組む児童を育てることができる。

### ４　研究内容

(1)学級活動への意欲を高める手立ての工夫
　（学級会グッズ、学級掲示、ワークシート、事前・事後活動　など）
(2)合意形成を図る指導の工夫
　（司会の育成、伝え合う力、対話力、教師の役割、板書　など）
(3)児童・学級の変容を見取る調査の作成と活用の工夫
　（児童アンケート、教職員アンケート　など）

## ５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

| 月 | 日 | 学年・題材名・授業者・助言者 |
|---|---|---|
| 6 | 27 | 第１回授業研究<br>６学年「６の２パワーアップ大作戦」　授業者　教諭　林　義隆<br>助言者　八戸市立下長小学校　校長　宍戸 義彦 氏 |
| 9 | 6 | 第１回研究報告会　報告者　豊巻 永子　山田 美智子　竹井 亮太<br>坂本 由実子　外舘 季和　林 義隆 |
| 11 | 2 | 第２回授業研究【初任者研修特別活動示範授業】<br>３学年「おやつの食べ方とむし歯の予防」　授業者　教諭　竹井　亮太<br>４学年「学習発表会お疲れ様パーティーをしよう」　教諭　深澤 美加子<br>６学年「『復活！秋の６－１大運動会』をしよう」　教諭　中村 亜希子 |
| 11 | 22 | 第３回授業研究<br>１学年「にこにこクリスマスパーティーをしよう」　授業者　教諭　髙橋　葵<br>助言者　八戸市立下長小学校　校長　宍戸 義彦 氏 |
| 12 | 13 | 第２回研究報告会　報告者　髙橋 葵　高谷 久美子　木村 智恵<br>深澤 美加子　佐藤 光子　中村 亜希子 |
| 1 | 11 | 第３回研究報告会　報告者　富岡 祥奈　田鎖 希美　鎌田 淳子<br>上村 尚美　中村 奈見子 |
| 2 | 28 | 第４回研究報告会　報告者　磯谷　琢磨 |

(2) 一般研修

| 月 | 日 | 内容・講師　等 |
|---|---|---|
| 5 | 31 | 特別な配慮が必要な児童についての共通理解<br>特別支援学級授業公開<br>授業者　教諭　夏坂　美保子　教諭　山下　由美子　講師　湊　美穂 |
| 8 | 23 | 「個への気づきと学級集団づくり～Q-Uの分析と活用を通して～」<br>講師　八戸市こども支援センター　学校体制支援アドバイザー　原　寿　氏 |
| 8 | 30 | 県学習状況調査の分析・考察 |
| 9 | 27 | 学校DX・１人１台端末活用　講師　本校教諭　外舘　季和 |
| 10 | 25 | 救命救急講習<br>講師　日本赤十字社水上安全法指導員　下田　尋通 氏・道地　理英子 氏 |
| 1 | 11 | 県外研修報告会【東北地区小学校特別活動教育研究会山形大会】<br>報告者　本校教諭　中村　亜希子 |

## ６　研究の成果

(1)児童が自分事として考えやすい議題を選定したり、学級会シートに対して予めポジティブフィードバックを行ったりすることにより、児童の学級会に対する意欲を高め、充実した話合い活動を実現させることができた。

(2)合意形成の具体例や話型を提示して使い方を指導したり、日常的に話したり聞いたりする力を育成したりすることにより、自分たちで問題を解決する力を身に付けさせることができた。

(3)学級会グッズを全学級分揃えたことにより、全校で学級会に取り組むことができた。系統的な指導の必要性を確認できたため、次年度の研究へ繋がることが期待できる。

## ７　研究の課題

(1)よりよい合意形成を図る手立てに課題が残った。めあてや提案理由の生かし方、少数意見の受け止め方、教師のかかわり方などについて、改めて整理する必要がある。

(2)話合いに特化した研究だったこともあり、問題の発見から事前の活動、話合い、事後の活動、振り返りまでの学習過程を十分に意識して取り組むことができなかった。児童の問題解決能力をさらに高めるため、計画的な学習過程を構築する必要がある。

（記入者　外舘　季和）